

二月の句

りっしゅんに

かかねばならぬ てがみかな

立春に書かねばならぬ手紙かな・わたなべじゅんこ

せつぶんの

まめのかわりに こんぺいとう

節分の豆の代りの金平糖・高橋将夫

ランドセル

まいにちしょって はるをまつ

ランドセル毎日背負って春を待つ・吉成美代子

あたらしき

ジーンズをかう はるとなり

新しきジーンズを買ふ春隣・皆吉司

ジーパンの

ほつれなびかせ はるいちばん

ジーパンのほつれなびかせ春一番・三由規童

一月は、あつというまにいつてしまいました。二月はにげてしまいます。三月は、さつてゆくものです。一ねんかんのことをおもいだしながら、大きなこえをげんきにひびかせましょう。

つけたしことば2

おはようごん左衛門

おはようごんざえもん

おちやのこさいさいかっぱのへ

へいきのへいざえもん

けつこうけだらけねこはいだらけ

しーらんべったんごりら

あたりきしやりきのこんこんちき

すいませんねんかめはまんねん

さよならさんかくまたきてしかく

ただいまかえつてきたきつね

こんげつも「つけたしことば」をよんでみましょう。なにもかんがえずたのしくよんでみましょう。



かぜひきこぎしね

うきうきしゅじ

しんしん きむい よるでした  
ちらちら ゆきも ふつてます  
おやおや ついに ハックション  
コンコン せきも でちゃったよ

ゆきや あられは コンコンコン  
いずみも わきだし コンコンコン  
だれかが とびらを コンコンコン  
ぼくも たくさん コンコンコン

いろんな「コンコン」 あるけれど  
ないほうが いい「コンコン」は  
かぜひききつねの「コンコン」だ  
はやくげんきに なーあれ!

せきの「コンコン」ときつねの「コンコン」がたのしいポエムです。「コンコンコン」のところがはずむようにたのしくよんでみましょう。

ふうきょうやはく 楓橋夜泊

ちようけい 張継

つきおち からすないて  
しも てんにみつ

こうふうぎよか 月落烏啼霜满天

しゅうみんにたいす 江楓漁火对愁眠

こそじょうがいの 姑苏城外寒山寺

かんばんじ

やはんの しょうせい

かくせん にいたる 夜半鐘声到客船

楓橋の泊まり

月は沈み、からすが鳴いて、冷たい霜の気が天に満ち、川岸の楓と漁火（いさりび）が、旅の愁いに眠れないわたしの目に映る。姑苏の町はずれの寒山寺の打ち鳴らす、夜半を告げる鐘の音が、わたしの旅の船にまで聞こえてくる。漢詩（中国の古いポエム）です。がんばって詠みましょう。

